### がんばろう 南三陸町

復興第89号

発 行 所

#### 千葉総合印刷株式会社

本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84 TEL(46) 3069 FAX(46)3068 企画・編集

志津川広報センター

# 自然環境活用センター復旧 子供をちの海の調査研究発表 令和2年2月1日記念シンポジウム

南三陸町の戸倉公民館2階に整備された、「自然環境活用センター」の復旧にあたり、100名を超える地域民・町関係者をはじめ、多くの報道関係者が集まった。

開会にあたり佐藤町長はあいさつで、「震災から9年目、おかげ様で戸倉地区に完成した」。震災前まで横浜先生の元で、南三陸町の海の生物の研究や調査をおこなっていた。「地方自治体ではじめての電子顕微鏡も設置した」。多くの研究資料も流出した中で、異例の早さで復旧した事を伝えた。

三浦議会議長は『「自然と共生する町」として、 自然活用の研究は世界でも認められている。」「世 界に向け発信していただきたい。」』と祝辞を述 べた。

引き続き、自然環境活用センター研究員の阿部拓三先生の「南三陸町の自然環境について」の説明をおこなった。「町営の海の活用とネイチャーセンター」として、800点の生物標本は津波により流出したものの、2012年から情報収集を始め、今では1000点を超える生活標本を集めている。海藻が220種、生物は600種となり、豊かな海である事を証明している。

ラムサール認定には9つの項目があり、1つでもクリアすればラムサール認定を受けられるが、志津川湾においては5つをクリアしている。



志津川湾には暖かい 海のアラメ、寒い海の コンブが共生している。 北からの親潮と南から の黒潮、日本海側から の津軽海流の3つが南 三陸に流れ込み、生物 の多様性を生んでいる。今では、温暖化のせいか「イセイエビ」が獲れる様になったと話す。 天然記念物のコクガンも 100 ~ 300 羽が南三陸町に飛来する素晴らしい海辺の環境が整った町です。

この後「南三陸町少年少女自然調査隊」の活動発表、「戸倉小学校6年生」の発表、「志津川高等学校自然科学部」が調査報告を行なった。



現在は 52 人が学ぶ戸倉小は、「元気な声であいさつをする事」を学校の目標にかかげています、と今を伝えた。震災前の映像では「以前の校舎からは海が見えたそうです。」と紹介してくれた。

私たちは平成 26 年の入学で、志津川小学校で勉強していました。震災後に戸倉松原の前の海辺で「あさり採りをし、いっぱいのあさりが採れた。水門や防潮堤が壊れていても、海の豊かさにビックリした。」「海がもどってきていると思った。」と話す。カレー

の稚魚の放流では、「大きくなれ、ガンバレ!」 と赤ちゃんカレーを送り出した。

最後に、学び・考えた事として、平成 27 年にはまだ新しい防潮堤はなかった。2019 年の 5 年生のサケの放流の海での活動で「大切な海を守ること」「命を守るためには防潮堤が必要。」と語った。「これからも豊かな海を守っていきたい。これからも勉強していきたい」と発表を締めた。

基調講演では、青森県むつ市海と森あふれる体験館の五十嵐館長が「陸奥湾を探り、世界を知る ~化学する心を育み歩む~」と題しておこなった。来場者からの質疑応答も行った。

# 2019年地区ごとの南三陸町人口の推移

(令和元年 12 月末現在)

	南三陸町	志津川	戸倉	入谷	歌津
22年3月	17,815	8,294	2,433	1,907	5,181
30年12月	12,987	5,328	1,427	1,952	4,280
元年12月	12,691	5,170	1,384	1,934	4,203
30年12月からの 増 減 数	-296	-158	-43	-18	-77
元年11月からの <b>増 減 数</b>	-23	-11	-2	2	-12
世帯数	4513	-	1	-	-

(2020年1月の新聞記事より)

- ・1 年間で296人減少。年間出生数はこの10 年で最も少ない53人にとどまった。
- ・昨年の出生数53人に対し、死亡は187人で134人の自然減。

#### 志津川湾「おすばでまつり」

2011 年 から続く南三陸 福興市は、今回で第 96 回を迎え、2020年4月で 100回目となる。



会場には沢

山の来場者が町内外から、南三陸町の海の幸をお正月のお膳に乗せようと、品さだめに身動きとれないほどの混雑となっていた。「かき汁」「手打ちそば」などのサービスコーナーもあり、休憩場は荷物を持つ人たちで埋まった。

最大のお目当ては「志津川真だこ」そして「ア ワビ」などが上げられる。お正月の用品として

2店のかまぼこ店が軒をならべる。

その他にも南三陸のワイナリーの「ワイン」、庄内のくだもの、まぐろの刺身用プロックにも行列ができて

いた。志津川高校ののぼりも立ち、「志高魂を胸 に!」と生徒も支援していた。

今回は1年間の福興市のお礼をかね、「愛町の 笑呼」と樽酒も振る舞われた。

## 未来への教訓

復興! 大津波の記憶を風化させない

**令和元年(2019年)** ~ 地元報道より ~

9月の出来事

#### ■ 南三陸町 ■

- ◆志津川の八幡川町行政区が1日、解散総会をホテル観洋で行った。町内外に散り散りになった住民が約8年半ぶりに集まった。約60人が参加。震災後初めて会う住民もいて、再会を喜びながら近況報告などに花が咲いていた。
- ◆東日本大震災で全壊した南三陸消防署の落成式が2日、新庁舎で行なわれた。新庁舎は志津川中央団地内に、鉄筋コンクリートの平屋建て。屋外には鉄骨造りで、5階建てと3階建ての訓練棟2棟を整備した。
- ◆志津川のサンオーレそではま海水浴場は今シーズンの来場者は4万 5050 人。昨シーズンには及ばなかったものの上々の結果で終わった。
- ◆歌津枡沢の高橋才太郎さんが泊漁港で、体長 1メートルのタチウオを釣り上げた。志津川蛸 研究所所長の肩書も持っている。3年ほど前か

ら実地調査もかねて、仕事を終えた後毎晩のよ うに歌津沿岸の漁港を回って釣りを続けている。

- ◆住民同士が車を共同利用するカーシェアリング事業の、実証運行が入谷林際地区で始まった。林際地区は乗合バスの停留所まで遠く、利用しにくいなど住民の移動手段の確保が課題になっている。
- ◆気仙沼・本吉地区中総体の駅伝大会が5日に行なわれた。本吉町津谷地区の表山田振興会館周辺コースで行われ、女子は志津川が優勝、男子は志津川2位となった。10月9日に栗原市若柳で開かれる県大会に出場する。
- ◆東京パラリンピックに向け事前合宿を行っている、チリのカヌー選手2人が4日、南三陸町を訪れた。訪問したのは女子のカテリン・ウォラーマン選手と男子のロビンソン・メンデス選手で、志津川高校生と交流した。友好の証しとしてチリから贈られたモアイ像も見学した。
- ◆南三陸町観光協会は「南三陸まるごとクーポンブック」を発売した。一冊千円で購入し、11月1日から2月末までに対象店舗やイベントで提示すれば、掲載されている割引やサービスが受けられる。
- ◆九州北部地方の豪雨災害で被災した佐賀県多

久市に、男性職員3人を派遣する。多久市からは2012年度から18年度まで、町に応援職員が派遣されている。

- ◆8日南三陸町サンオーレそではま海水浴場で、ビーチアルティメット大会が開かれた。東北や関東の大学生、社会人などこれまでで最多の16チーム約200人が出場した。ビーチアルティメットはフライングディスクをパスでつないで、得点を競うもので砂浜を
- ◆志津川地区で進める道の駅整備で、建築家隈研吾さん主宰の「隈研吾建築都市設計事務所」に設計業務を委託した。2021年4月のオープンを目指している。

フィールドにしたもの。

- ◆気仙沼、南三陸消防署員 10 人が殉職し、 2014 年3月広域事務組合職員互助会が、南 三陸消防署仮庁舎敷地内に殉職者慰霊碑を建 立した。慰霊碑は再建された南三陸消防署の 敷地内に移設され、このほど御霊入れの供養 が行なわれた。
- ◆15 日上の山八幡宮で「秋まつり」に合せた稚児行列が行なわれた。子供たちの健やかな成長を願う行事として、毎年行われてきた稚児行列。 今年は25人が参加した。

(前ページよりの続き)

- ◆JA新みやぎ南三陸地区少年野球大会が登米 市津山町柳津で開かれ、南三陸町野球クラブが 2連覇した。新JAが発足して初めての大会。
- ◆志津川地区で交通死亡事故ゼロ 2500 日を継 続したとして、県警は町に感謝状を贈った。秋 の交通安全運動出動式に先立ち、感謝状が南三 陸署長から町長に伝達された。
- ◆農作物のブランド化を後押しするため、新 たな農業補助金創設。町内で新規ブランド化 を目指して作物の栽培に取り組む農家など。 施設や機械整備費以外の種苗、肥料、農地賃 借料などの経費に対し、3分の2を補助する もので、上限は30万円。作付の下限面積は 3アールに設定している。
- ◆21 日南三陸さんさん商店街で南三陸署などに よる「交通安全広場」が開かれた。白バイ、パ トカーの展示などがあり、子供たちは白バイに

またがり、記念撮影をしたりして楽しんでいた。

- ◆20 日南三陸町出身の高校生を対象に展開して きた、「東北ミライリーダープログラム」の発表 会が南三陸ポータルセンターで行われた。南三 陸町の活性化を図り、次代のリーダー育成につ なげることを目的に、日本アムウェイ財団が協 賛し、初めて行われた。
- ◆秋の交通安全運動期間中の 24 日、戸倉の国道 45 号沿いで戸倉小学校の児童がドライバーに安 全運転を呼び掛けた。

約30年前から秋の交通安全運動「繭マスコット 運動」として、児童が繭玉を使ってマスコット 約100セットを製作し、ドライバーに配った。

◆24 日戸倉・入谷地区の敬老会がホテル観洋で 開かれた。約190人が長寿の祝福を受けた。77 歳以上を対象に戸倉・入谷、歌津、志津川の3 地区に分けて敬老会を開催。地区別では志津川 1028 人、戸倉 257 人、入谷 416 人、歌津 759 人となっている。

- ◆宮本慎也杯学童野球大会が 21・22 日、気仙 沼市立唐桑小学校などで開かれ、小学生チーム が熱戦を繰り広げた。4年前から実施していて、 今年は 12 チームが出場した。トーナメントで競 い、南三陸町野球クラブが優勝した。
- ◆志津川助作地内に復旧した「松原公園」の野 球場と陸上競技場が、28 日から利用できる。公 園の一部については、別工事との関係から公園 全体の完成は、来年度となる見通し。
- ◆町は、東日本大震災発生直後の職員の行動を 取りまとめた「東日本大震災職員初動対応等検 証報告書」を公表。内容は町ホームページでし か公開していない。
- ◆厚生労働省は全国の公立病院や公的病院の うち再編・統合の議論が必要と判断した病院 名を公表。気仙沼・本吉地方では南三陸病院 が対象になっている。

南三陸病院は 15 年 12 月に開院し、診療科 は10科、病床数は全部で90床となっている。



南三陸町の成人式は、成人を迎える皆さんが 実行委員会を立ち上げ、式の司会・進行などの 総てにわたり成人者が企画演出を毎年行ってい る。初めに志津川・歌津・戸倉・入谷地区選出 の実行委が、正面に並び委員長の高橋君は「支 えてくれた実行委員に感謝します。」「皆さんよ ろしくお願いします。」と整列した仲間と頭をさ げ、自分たちが選んだ曲に合わせて成人式が始

まった。



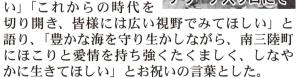
令和元年度南三陸町「成人 式」の新成人は、志津川60人、 戸倉 20 人、入谷 21 人、歌 津 52 人の合計 153 人(男 78人、女 75人) ながら、参 加者は 134 人となった。

(成人の誓い)

佐藤町長の式辞では、「小学校の最高学年にな る時に大震災になった」「己らが選んだ環境の中 で頑張ってきた」と語り、「大人としての未来・ 希望に迎い、自己研鑚でねばり強く成長してほ しい」「信念と自信を持ち悔いなく人生を生きて ほしい」と言葉を贈った。

お祝の品の贈呈では、 桜の木の「名前入り塗り 箸」が記念品として成人 者に贈られた。

三浦議長は、「新元号 初めての成人式、皆さん の顔は晴れやかで眩し



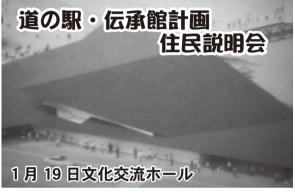
誓いの言葉では、「更なる復興と発展に貢献で きたらと思います」と集まった皆さんの前で誓っ



た。 成人の抱負 で、畠山さんは 「南三陸町をさ さえる存在とな りたい」と話し、 小野君は「困難 に挫折しそうに なった時、家族

が支えてくれた」「一つひとつに責任を持ち、地 域の皆さんを支え、誰かのために活動しないと

いけない」と、これからの自分の考えを語って くれた。



南三陸町の2つの商店街を設計した隈研吾氏 による道の駅・伝承館施設デザイン説明会が、 文化交流ホールで開催され、町民80名余りが熱 心に隈氏の構想に耳を傾けた。隈氏は南三陸町 の震災復興祈念公園との総合的な整備の最終的 な伝承の場としての、道の駅構想を住民に伝え

佐藤町長のあいさつでは、「中橋の上部の建設 も進んでいる。残る事業が南三陸町のシンボル」 「震災遺物がない事の差別化」と道の駅施設整備 の説明会の席上述べた。

隈研吾氏は、道の駅の構想を「全体のしめく くりと考えている。」と話す。「さんさん商店街 は海への流れ、中橋の東にL字型に配置し」、「海 と山、過去と未来、船のような建設に」と語り、 町と水辺をつなぐ、町の回遊性をつくり、穴で 人の流れを誘発させ、さんさん商店街を重視し た「人の流れを創出し、バリアフリーとエレベー ターを設置し、展望台デッキを整備したい」、穴 は人の流れをブロックしない、町と調和した外 装で建設される。

最後に質疑応答があ り、志津川地区の及川 さんは「防災庁舎と高 野会館の在り方につい て」の質問をし、梶原 さんは「語り部の活用 を」、後藤さんは「伝



承館の整備について」など、住民の皆さんの意 見が述べられた。

### 南三陸町震災伝承施設展示計画について

(吉川由美氏によるコンセプト説明)

■南三陸町震災伝承施設の整備目的 ①東日本大震災の大津波による南三陸町民の被 災体験を伝える ②全国・世界からの支援への 感謝を伝える ③唯一無二の体験と感動を与え る観光交流の拠点となる ④町民が被災後の自 分たちの生き方を見つめ、被災体験を語り合い、 自らを誇りうる"みんなの広場"になる

#### ■南三陸町震災伝承施設の基本コンセプト 基本理念

東日本大震災に関わる南三陸町民の記憶と体験 の伝承を通して「自然とは、人間とは、生きる とは」を五感で感じ、学びあい、思考する「み んなの広場」

#### ■南三陸町震災伝承施設の機能

①ラーニングセンター機能 ②アーカイブセン ター機能 ③交流センター機能

### 南三陸商工会三部会合同懇談会

(前号よりの続き)

地域起こし協力隊の活動報告では、森林資源 活用推進員の羽根田将宏氏が町の木材の活用に 関して、「森の管理」「若い人たちがまだまだ少 ない。」と話した。循環すると森の環境が良くな る。山から取り出した植物で庭を造る。環境エ ネルギー、廃材の利用を提案した。

南三陸ワイナリー株式会社の佐々木道彦氏は、 ブドーを育て現在ワイン生産を進め「コミュニ ケーションの場をつくっていきたい。」「ワイン と町の食材で6次産業化を進め、町の一次産業

に寄与した い。」と話す。 来年は田東山 に農場を拡大 し、中長期的 に南三陸町に ワイナリーを 建設しレスト 整備をし、人



を増やしていき「ワインツーリズム」を達成し たい。

### 志津川広報プラザイベン

# 紅谷恵美子(旧姓千葉恵美子)

2月15日(土) 午前 10 時~午後 2 時 志津川本浜志津川広報プラザにて (志津川駅の海側隣)



志津川高校を卒業 し、一時期志津川町 -図書館で事務を執っ ていた。その後東京 に就職し、神奈川県 で一女をもうけ夫婦 で静かに暮らしてい た。

 $\Theta$ 掃 粧 13

60 代半ばになり、夫婦で登山の喜びを知り、 趣味として始めた「ボタニカルアート」は素晴らし い作品として、作品集にして会社で作成した。大震 災で作品データと作品集は流出したものの、仙台の 印刷会社に「データ」が残っており、今回2回目の 作品展を開催する。

アートのかたわらで書家の先生の元で、毛筆の作 品創作も同時に行っていた。

千葉印刷代表 千葉賢二郎の妹、千葉家四女とし て遠くから我が家を見守ってくれていた。